猪飼野地域新聞「おなら」、その屁のつっぱり

飛田雄一（むくげ通信 312 号、2022 年 5 月 29 日より）

神戸学生青年センターが移転してから 1 年がたった。旧センターにはいろんな資料が残っていた。やむなく PDF ファイルにして廃棄したものもある。しかし、PDF ファイルにしてからも廃棄できないものもある。そのひとつが、猪飼野地域新聞「おなら」だ。

1 号（1978.6.1）から 30 号（1981.9.18）まで発行された。それは、「号」ではなくおならなので「発目」とある。正確には、24 号（1980.8.15）までは発目、25 号（1980.10.1）から号となっている。B5 版、2 頁、オフセット印刷？。

創刊の 1978 年 6 月は、すでにむくげの会がスタートして 7 年目、油ののりきった時期で？、この「おなら」と機関誌交換をしていたものと思われる。

当時猪飼野で、不動産屋が「外人不」「要住民票」の掲示が問題となった時期だ。1 号（1 発目）の創刊の辞は再録したものをご覧いただくとして、その記事の続きには、Y.M「5/7 入居差別を許すな？ 生野住民集会に参加して」には、次のように書かれている。

「ともに参加していた大阪府の役人も。最初は遠まわしな応答しかしていませんでしたが、不動産屋の態度、そして住民からの強い要望に対して次のようなことを約束しました。／その内容は、生野区内の不動産屋を一軒々々回り抜き打ち検査をおこなう、また悪質な業者には「免許とり消し」もありうるとのことでした。／このように、大阪府の「前むき」な見解を出さすところまではいったのですが、表面的に「外人不」という看板が店頭から消えるぐらいで、まだ根本的には何も解決されていません。／そして、不動産屋は、この集会において、何もしゃべらず次回にもちこしとなったので、さらにきびしい態度でとりくんでいかなくてはならないと思いました。」

ちなみに「おなら」は、2 発目（1978.7.1）によると「カンパ 20 円＋α」、そのご最終号の 30 発目も「カンパ￥20」とある。1971 年 1 月創刊のむくげ通信は、9 号（1971.9）から通信らしくなり、18 号（1973.5）には、「1 部 50 円」とある。

発行部数が気になるが、4 発目（1978.9.1）に以下の記述がある。「社説 「おなら」4 発目への道」の一部である。むくげ通信と比べものにならないくらい多い。

「現在、「おなら」は 2500 部発行。その中で 2300 部ぐらいは猪飼野地域（中川西、桃谷、鶴橋、勝山）を８ブロックに分けて日本人（厳密ではありませんが）の家庭に個別配布しています。残り 200 部ぐらいは個人売りと本屋さんに回し、あとの残部を保存用に残しています。だから唯一の私たち「おなら社」の収入源は個別売りの分です。」（10 号 1979.3.1 によるとおなら取扱店として、翠松書店、松原書店、たいせい書店、酒処羽衣がある。）

さて、この雑誌名の「おなら」、創刊号には、「私たちの、この「おなら」は、そういったくさいことにフタをさせるのではなくて、そのフタをあけて、本当の問題はどこにあるのか、ということを地域のみなさんと一緒にかんがえてゆきたいと願っています。（略）私たち自身がオナラとなって、悪い奴らに一発かましながら、この地域の問題をひきずりだしてゆきたいと思っています」とある。なるほどと思っていたが、今回その真の意味が読み直して分かった。20 号（1980.2.27）に以下の記事があった。

先日、おなら読者のおじいちゃんが我が「おなら」の由来（？）を話してくれた。／おじいちゃんの解釈によると「おなら」は「於那羅」であるという。那羅（なら）というのは韓（から）語で「国」という意味であり、奈良の都も朝鮮からの渡来人がつけたといわれる。このことは「奈良市史」にも記されているという。／で、在日朝鮮人の問題を日本人の問題として考えてゆこうとしている「おなら」は、その「那羅において」という解釈が正統であるというのだ。／これには社員一同、恐縮のいたり。／でも、こういう話は大歓迎。おじいちゃんまた話してください。（JUN）

ときにはかわいい漫画も登場する。おかくみこさん作だ。次頁の漫画もそのひとつだ。（20 号 1980.2.27）

連載記事もある。「猪飼野の詩」は、2 号から 30 号まで続いている。写真または文で名前があがっているのは、岩淵英司、貴美、M.K、ヨーコ、芽キャベツ、南州雅代、早川、伊藤順、土方なんも、金海雨、KAICHO、PC、清水達也、山辺一郎、S、大隅、山下、M.H、金正坤。毎回いい雰囲気の写真もある。むくげ通信もそうだったが、当時ペンネームを使うことがはやっていたので（？）、適当な名前を使っていたのかもしれない。むくげ通信の初期のペンネームも、ガリ切りの字があるので書き手がわかるのである。ガリの時代は、記録的にはすばらしい（？）

ほかにも、主に清水達也による「連載・ほんまのほんま―近代日本と朝鮮―」、「リレー方式 小説もどき・海を越えて」もある。（下記記録参照）

30 号（1981.9）の「最後の編集後記・グッド・バイ」には、5 名の名前が年齢とともに記載されている。南州雅代（24）、大隅とヒグマの話（30）（26）、清水達也（37）、伊藤順（32）。1981 年なら飛田 31 歳、堀内 34 歳なのでだいたいむくげの会会員と同世代のようである。

30 号に「幻の新聞・おなら合本（1～30 号）、今秋完成予定、予約受付中！900 円」という記事がある。合本発行は確認できていない。今回以下のように手元に残る「おなら」の発行年月日等を記録した。「欠」となっている号をお持ちの方は、ぜひみせてほしい。また合本をお持ちの方は教えてほしい。むくげ通信に「むくげ友誌」というコーナーがあって 7 誌紹介しているがその中に「おなら」はない。

いま、猪飼野コリアンタウンは、若い女性を中心に活況を見せている。この「おなら」効果がでているのかもしれない。「おなら」編集部のみなさん、このむくげ通信をごらんになったら、ぜひ飛田まで連絡を願いします。

＜記録＞（欠は、手元にないもの）

一発目 1978.6.1 創刊のあいさつ他
二発目 1978.7.1 猪飼野の詩①スタート
三発目 1978.8.1 ホンヨンウン豊田勇造コンサート他
四発目 1978.9.1 社説「四発目への道」他
五発目 1978.10.1 いかいの迷転歩記（めいてんあるき）他
（この間欠）
八発目 1979.1.6 リレー形式小説もどき①海を越えて
九発目 1979.2.1
十発目 1979.3.1
（欠）
十二発目 1979.5.15 猪飼野の詩⑩ホンヨンウン
十三発目 1979.6.25 1 周年記念号、海を越えて⑥（了）
十四発目 1979.8.10 座談会、海を越えてを終えて
（欠）
十六発目 1979.9.30 連載「近代日本と朝鮮」
十七発目 1979.10.31
（欠）
十八発目 1979.12.12 コラコラコラム山口百恵他
十九発目 1980.1.10 新年号 学林図書館紹介他
二〇発目 1980.2.27 コラム「アフガニスタン」他
二十一発目 1980.3.31
二十二発目 1980.5.10
二十三発目 1980.6.20 社説「ダブル選挙に思う」他
二十四発目 1980.8.15 「江戸時代の朝鮮通信使」上映
２５号 1980.10.1 座談会「日本、どこへゆくのか？！」
（欠）
２７号 1980.12.20 猪飼野に夜間中学を他
２８号 1981.1.31 「民衆の喊声民衆の絶叫」紹介他
２９号 1981.3.31 日の出書房広告他
３０号 1981.9.18 猪飼野の詩、近代日本も終了